

メタボ検診(特定検診)はどうなっているのか

しばさき 柴崎
しげお 重雄

問 メタボ検診によって生活習慣病発症を予防し、将来の医療費削減が目指されている。深谷市の検診状況・保健指導の現状はどうなっているのか。

答 平成20年度市国保の特定健診の実施状況は40歳から74歳までの受診対象者に郵送し電話予約による受診となった。会場は各地区保健センター・総合健診センターで、対象者中25・1%の実施率であった。腹囲・BMI・血液検査・喫煙で対象者を積極的支援・動機付け支援に区分した。その結果、積極的は472名、動機付け985名となった。これらの対象者に個別通知し個別面接・健康教育・講話などの継続的保健指導を実施した。参加率は積極的対象者で11・4%、動機付け対象者で18・4%だった。これ

らの指導実施により対象者80%に体重減少や生活習慣改善への意識向上が見られた。平成21年度も実施しているが、今後も当事業の啓発と受診率向上のため、準備を進めていきたい。

歩道橋の維持管理はどうなっているのか

問 県では歩道橋の老朽化や利用減により廃止等で財政負担を減らす動きがあるが、市内の歩道橋の現状と維持管理を聞きたい。

答 市内の歩道橋は22カ所。市の管理は3カ所である。市役所南の仲町歩道橋・深谷商業高校東側歩道橋・上柴ショッピングセンター北側歩道橋である。市民の通報や職員の定期的なパトロールを行い塗装などの補修を実施していく。



仲町歩道橋

全国学力・学習状況調査の結果を受けて

おがわ 小川
しんいちろう 真一郎

問 第3回全国学力・学習状況調査の結果を受け、将来を担う、限らない可能性を持った児童生徒たちの学力向上、学習環境向上のために、どのような取り組みを行うのか方針を聞きたい。

答 調査結果をもとに、児童生徒一人一人の学力・学習状況を把握し、指導や支援を行っている。調査結果からは学力の向上には学習習慣や生活習慣がかかわっていることが示されており、望ましい学習・生活習慣の確立のため家庭や地域に働きかけて、子供たちの学力向上に努めている。教育委員会としても「学力向上推進委員会」を開き、「学力向上に向けての提言」を行った。さらに提言をもとにチェックリストを作成し、各学校の実態に応じて活用している。

住宅用高効率給湯器設置補助制度の設立を



今後も効果的な指導のあり方を研究し、教職員が共通認識をし、行動連携が図れるように各学校に指導していく。

問 温室効果ガスの排出削減、省エネ生活の推進、また地域経済の活性化のため、深谷市において住宅用高効率給湯器(エコキュート等)の設置に補助金を交付する制度を設立したらいかがか方針を聞きたい。

答 新たな補助金の今後の方針については国や県による新しい制度の創設や新しいグリーンエコ関係の住宅関連機器等が開発されてくると考えられる。本市としては、深谷市に合った形での補助事業を研究したいと考えている。

遊休農地解消事業の今後の取り組みに新たな対策は?

ばば 馬場
しげる 茂

答 深谷市耕作放棄地対策協議会を設置し、遊休農地解消のため、国・県等の補助事業を導入していく。ハード事業の予算が主として4020万円、目標解消面積40・2ヘクタールとする。

問 年間30ヘクタール解消目標は達成できているのか。

答 昨年は27・3ヘクタールの解消が確認された。しかし、それを上回る遊休農地が38・1ヘクタール確認され、結果としては増加している。

問 川本地区で、ひまわりを栽培し、油にして直売所で販売しているが、このような事業を支援していく考えは?

答 遊休農地の再生工事に6万円以上かかる場合は、補助の対象となる。支援できるメニューはあるが、条件があるので問い合わせしてほしい。

地場産業のPRについて

問 市長は日本一の販売を誇る大田市場へ出向くべきでは。

答 深谷市産の農産物を直接周知することができると絶好の機会となるものと考え、前向きに検討する。

関越自動車道寄居パーキングエリアのスマートインターチェンジ設置について

くにお 邦男
すとう 須藤

問 スマートインターチェンジを設ける気配が見えないが進捗状況は。

問 6月14日、花園地区、川本地区で降ひょう被害が出たが、市としての救済対策は?

答 埼玉県農業災害対策特別措置条例に基づき、埼玉県知事より特別災害指定を受けた。補助額は総計で31万3215円。県と市が2分の1ずつ。

問 市道幹10号線の拡幅計画の今後の予定は?

答 上原地区で新たな県道の整備が進められており、県事業の進捗を見て検討する。



市道幹10号線

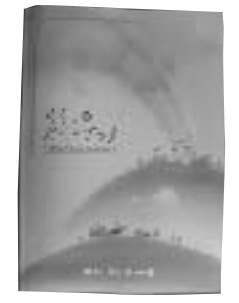


答 昨年4月、発足した社会実験研究会という組織を中心に協議を進めてきたところで

ふかや市議会たより(第16号 平成21年11月1日発行)

証明書類、許認可等申請するものいざこざを防げ

いまむら 今村
さんじ 三治



くらしのガイドブック(現行版)

問 申請するまでの添付書類等、市で取り扱うすべてのものはわかりやすくしておくこと。K建設などへの認可はすぐおりに市内業者は申請して10日以上たっているのに許認可がおりない。K建設をえこひいきしているのではないか。また、何でこんなものに委任状が必要などの苦情も多い。そこで認可を与えるものは何日前後かかるとか、こういったものの申請には委任状が必要などと印刷して各家庭に配り、市民が混乱をまねかないようにするべきではないか。

答 来年4月に「くらしのガイドブック」を每户配付することを予定している。

問 簡条書きにしてB4くらいの一覧表にして各家庭に配るべきではないか。

答 平成12年ごろから透水性舗装を使用している。降雨時における路面排水を良好にし、歩道における歩きやすさの向上を図るとともに側溝への雨水の流出を抑制することが目的である。車の通行部分については大型車が通行しない道路において側溝等の排水施設がない道路では現場の状況を勘案して使用できるか研究していく。

〈議会あれこれ「一般質問ってなあに?」〉

…議案質疑とは別に議員が市の行政全般にわたり執行部側に対し自由に質問できるものです。9月議会では18人の議員が質問をしました。〉